恵の夢

逆境の中にこそ夢がある

蒲島郁夫熊本県知事出前ゼミ

楓の森小・中学校に知事とくまモン来校

十月四日に、蒲島郁夫知事が合志楓の森中学校に来てくださった。蒲島知事は「夢」をテーマに、これまでの人生についてをお話してくださった。知事の他、合志市市長、議長、議員の方にも来ていただき、とても貴重な時間となった。

知事は一九四七年に九人兄弟の七番目として、現在の山鹿市に生まれた。貧しい生活のため、小学校二年生～高校三年生まで新聞配達をして生活費を稼いでいた。勉強は一切していなかったそうだ。

そんな知事は本を読むことが好きで、高校では読書三昧の日々を送っていたそうだ。そこで知事は三つの大きな夢を持った。小説家、政治家、牧場主。二十歳、牧場主の夢を叶えるため、農業研修生として渡米。その後「大学でもっと勉強したい。」という思いからネブラスカ大学を受験するも、現実は厳しく不合格となった。しかしそこでチャンスは訪れた。それはハドソン先生との出会いだ。ハドソン先生の「蒲島はやる気のある学生だからチャンスを与えるべきだ。」という言葉で、六ヶ月間の仮入学が認められた。プレッシャーもあったが、大学に入れた喜びはそれ以上のものだったそうだ。そこから人生で一番の猛勉強をし、その結果オールAという成績を修めた。ネブラスカ大学卒業後、農業とはかけ離れた政治家を選択し、ハーバード大学を目指した。不安もあったが授業料免除、奨学金付きという条件で入学できた。それは二十八歳での出来事だ。三十歳の筑波大学教授を経て、五十歳で東京大学法学部教授に就任した。

六十一歳で知事に就任し、現在は四期目に挑戦している。「持続可能な熊本」を実現できるように五つの安全保障などに取り組んでいる。

知事は伝えたかったこととして次のことをあげていた。

「人生の可能性は無限大」「逆境の中にこそ夢がある」「一歩一歩小さな夢に向かって一歩を踏み出す」「四期待値を超える」の四つだ。「逆境こそそういった大きな飛躍ができる幸せの源泉なのである。」と話された。私も、逆境の中で諦めず、夢を努力してつかんでいきたい。

真士月世咲う穏
悠歩葉咲心く花
瀬島さ
田ノ口久村桐
有一川多中花原

TSMCの恩恵は？

二〇二一年十月に、半導体の受託生産で世界大手の台湾のTSMCが、半導体の新しい工場を菊陽町に建設する方針を明らかにした。世界的な半導体不足が続く中、国内に新たな半導体工場を誘致することで将来的な半導体の供給を強化するねらいがある。

工場の完成により、先端技術に通じた一七〇〇人規模の雇用が生み出される予定である。今年四月から着工し、二〇二三年九月までに完成させる予定であり二〇二四年十二月の生産開始を見込んでいる。熊本には、ソニーや東京エレクトロンなどの半導体関連企業が存在し、TSMCの完成によりこれらの企業も活性化され、地域の景気もよくなるだろう。

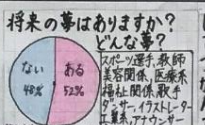
合志市は、熊本市に隣接するベッドタウンとして整備が進み、市内では住環境・自然・農業が程よいバランスとなっている。そして自然災害の発生も少ないため、暮らしの便利さと自然の豊かさを兼ね備える安心して住める町として人気だ。

また合志市には、九州自動車道「北熊本スマートIC」からのアクセスも良好で、通勤通学も便利なので子育て世代の転入が多いことから人口が増えている。

TSMCの進出により、流入する人達が合志市をベッドタウンとして、選ぶことも十分に考えられる。

最後に、TSMCの工場が菊陽町にできることで生じる合志市へのメリットをまとめた。

・雇用の面で好影響で、市民の就労環境の改善や所得の増加
・移住、定住が増え住宅需要の向上、税収にも影響し経済の好転
・関連産業の進出意欲が促進し新、増設等が促進される投資機会の増加
・集積効果により他方への効果が期待できる。



合志市のランドマークに御代志地区開発

今の合志市では、たくさんの工事を進め、大きく発展しようとしている。その中でも「御代志」を中心とした開発が大きく進んでいる。今の御代志では線路の移設、交差点を十字交差点にすることによる渋滞の緩和、駅の再整備と駅前広場の整備など、狭い道を作り替えて安全で暮らしやすい環境に変えていくことなどを目的としている。私たちはこの御代志地区開発について市の都市計画課を取材した。御代志駅周辺の開発の現在の状況について、楓の森中から西側の道路を新しく整備し、すき家に向けて道路を整備している。線路の移設については、九月中には完成、十月の上旬には新しい線路が、利用できるそう。今度の駅には、駅舎が建てられ、公衆トイレ、バスの乗り降りの際に便利な屋根も建築中。この御代志駅周辺の開発により、でどのようなメリットがあるのか聞いたところ、歩道整備による通学する小中学生の安全性は格段に向上する、この事業により今まで家が建てられなかった土地に住宅が立ち住宅地として住む利用も見込まれるとのことだ。最後に商業施設について聞いたところ業種は未定だが、沢山のスーパーマーケット、学習塾や飲食店など計画中で二年後には新しいお店がオープンできるとのことだ。様々な変わりする御代志地区。合志市の新しいランドマークになりそうだ。とても楽しみである。

ずっと住み続けたい まちづくりワークショップ

九月二十五日にルーロ合志にて、これからの理想の町づくりについてのワークショップがあった。私たちはビンゴのようなものか実際参加してみた。合志市の町づくりについて中高生のみんなで四人一組のグループで行われたそのワークショップでは、「成熟社会」「成長社会」などの言葉を学ぶことができた。

そこでは、ゲームが行われた。それは、四つのある視点から今の合志市の問題点を見つけ、それを改善するためにはどうするかを考え、それをグループの中で発表し、票を集め最後に一番点数が多いほうが勝ちというゲームである。

このワークショップでは、欠点を見つけてしまった場合は、それを別の部分で補うとよりよい意見を見つけ出すことが最も望ましいということを学んだ。

このワークショップからは、中高生の先輩方と触れ合いながら、町づくりの視点について重視されることを学ぶことができた。

体験型の学びを 恵楓園歴史資料館

恵楓園資料館は話し合いに力を入れ、入所者の人といっしょに考え、令和四年五月十三日にリニューアルした。

恵楓園資料館の中には、ハンセン病の主な症状、恵楓園の中の説明が書いてあった。実際に体験したり、音声を聞けるようなコーナーもあった。どういう症状なのかをよりくわしく知ることができた。

り、ハンセン病患者のことがくわしく分かるような体験ができた。音声では本人の声があったり、資料の文章を読んでくれるものを置いたりしていたので、体験型の見学ができるようになっている。様々な体験ができた。

私は資料館に行って今まで以上にくわしく知ることができた。

起業の後押しを 創業支援補助金

十の要件を満たす者だけである。

補助金の交付の申請を行うか、事業を開始した日以後三年を経過していない創業者

二、本市の特定創業支援証明書の交付を受けること。

三、補助対象者が個人の場合は市内に居住することとし、補助対象者が法人の場合は市内を本店所在地とした法人登記を行うこと。

四、補助金の交付を受ける年度の末日までに、合志市に本店又は主も、銀行などの金融機関からお金を借りやすい「創業融資制度」などもある。

創業支援補助金を受けることができるのは

熊本県住みたい街ランキング第一位の合志市。人気の理由の一つ、創業支援補助金について商工振興課に聞いてみた。

具体的な活動内容に、設備費用、事務所家賃、広報費などの必要な経費の補助がある。この活動は令和二年度から始まり、個人事業主は二十万円以内、法人は三十万円以内で対象となる経済の二分の一以内で補助される。利用人数は、令和二年度九件、令和四年度七件になっている。この他に

編集後記

屋休みや放課後を利用し、計画的に制作に取り組むことができた。そして実際に取材をすることで自分達の考えが広がりくことができた。

また、蒲島県知事の「逆境の中にこそ夢がある」をテーマにしたお話も聞いた。自分の夢について改めて考える、とても貴重な時間となった。さらにワークショップでは四つの視点から合志市の問題点を出し、それに対する改善点を考えた。壁新聞の活動をしながら合志市のよい所を発見できた。

今後の合志市の夢が広がる気がした。

生活応援商品券

新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中、物価上昇に伴い生活にも深刻な影響を及ぼしている。そのような環境の中、市民の暮らしを応援することを第一の目的として、合志市民、約六四〇〇〇人を対象に生活応援商品券を配付した。

申請の手続きは必要なく、使用期間は九月一日から十二月三十一日までの四か月間だ。

一人あたり三〇〇〇円が配付され、スーパーマーケットから飲食店など様々な店で使うことができる。

この商品券を使用することで地域経済の活性化を図ることができる。